

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

富士見市に鶴(タンチョウ)が居た?

平成22年3月1日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
第43号

NEWS from NANBATAJYO

市民学芸員 小森 和雄

冬は渡り鳥の季節です。富士見市に鶴(タンチョウ)が来ていたことがあるといったら信じられますか。

難波田城公園のある富士見市の荒川沿いの低地が海だった頃(今から5500年から6000年前)の遺跡である水子貝塚の



水子貝塚展示・鶴の骨

「展示館」には、貝塚から発見された縄文時代の人々が食べた動物の骨が展示されています。その中に、イノシシやシカなどとともに、鶴の骨があります。

また、富士見市内には、江戸時代に尾張藩鷹場があったことを示す石杭(当資料館にレプリカ展示)があり、江戸の尾張藩上屋敷からは「鶴」の骨が多く発掘されています。江戸末期に病気の父親のため、禁鳥の鶴を獲り刑に処せられた「孝子太郎兵衛」の話が、本郷中学校裏門の小川の辺にある墓といわれている



石杭(レプリカ)

石塔とともに語り継がれています。調べてみると江戸時代、鶴は特別な鳥で、庶民には捕獲が厳禁になっていました。そして、東京には確実に鶴がきていました。その場所は三河島で、将軍の鶴の鷹狩りの場となっていたことが、浮世絵



孝子太郎兵衛の墓と称されている石塔



江戸東京博物館蔵書の浮世絵

師安藤広重の「名所江戸百景」に描かれている等記録が残されています。鶴は鷹よりはるかに大きく野生では襲われることはありませんが、特別に訓練した鷹で狩りをしたのだそうです。鶴の鷹狩りを描いた「鷲鳥図(シチヨウズ)」も残されています。



「徳川将軍家と鷹狩」展より
(平成17年江戸東京博物館)

昭和53年10月発行の「広報ふじみ167号」に掲載された「郷土(ふるさと)の歴史」によれば、【富士見市鶴間(江戸時代に鶴馬に改名)の地名の起りの「間」はアイヌ語で、わずかな水面・湖沼の意味があるといわれています。昔この地辺一帯が低湿な地であったので、この名が起ったと見てよいでしょう。鶴の意味は明らかではありませんが、おそらく鶴が飛来するのを見て自然に起った名ではないでしょうか。(富士見市史編さん委員の山口和夫氏)】と、地名の起りは鶴が飛来していたからだとの説が紹介されています。

現在は耕地整理が行なわれ、田んぼも乾田化してしまいましたが、かつての荒川や新河岸川一帯は湿地帯で、エサの豊富な越冬地として鶴にとっては住みやすい場所ではなかったのでしょうか。

富士見江川沿いに「孝子太郎兵衛の墓」「水子貝塚公園」を経て「難波田城公園」まで約3Km、「鶴」を求めての歴史散歩はいかがでしょうか。



上野動物園で撮影

難波田城公園 冬

冬は全ての命の源である太陽の恵みが最も減少する時期で、「実りの秋」から「芽吹き春」へ備える季節です。

難波田城公園では「梅」「サザンカ」「福寿草」等が寒さの中で咲き誇る中、「年末」や「正月」の行事、ワラ縄のないような屋内作業の体験などを行っています。また、移築された古民家の旧金子家住宅の縁側や庭先では、日向ぼっこをしながら子供達が昔遊びに興じています。

古民家のスス払い

十二月は青竹の穂先で一年間のススを払い新年を迎えます。



餅つき体験

お正月を控え餅つき体験は楽しいです。



縁側でオハジキ

陽だまりの縁側は子供達の遊び場、懐かしい風景です。



七輪でお餅焼き

ちよこつと体験のひとつ、香りが食欲をそそります。



書初め

書道の先生の指導で子供達が宿題をしています。



わら草履づくり

わら草履づくりは健康志向で人気が高まっています。



おもしろ・なつかし体験 ⑳

オリジナル羽子板・コマづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

お正月を中心とした冬の遊びとして、男の子は「コマ」、女の子は「羽根つき」があげられます。そこで、12月から1月にかけて、何回かコマと羽子板づくりが当館講座室において開催されています。既にコマや羽子板の形に加工してあるものに、参加者が絵を描き着色すれば完成です。

コマの場合は、絵を描くというより、見た目の美しさや回った時の色具合や姿を想像して着色すると言ったほうが適切かと思えます。子供達と共に童心に帰って製作に励んでいるお父さんもいます。

羽子板づくりは、長さ 30cm程のホウの板

に思い思いの絵を描いて仕上げます。絵が描きやすいように、絵カルタや動物の絵、更には、板に写し取りやすいように動物や植物の形をくり抜いた板等が用意されています。女の子と母親とで羽子板づくりをする姿は微笑ましいです。下絵を描いたら絵の具で着色し、ドライヤーで乾かしています。1時間ほどで完成です。完成後は陽のあたる旧金子家住宅の前庭で、自作のコマや羽子板で楽しそうに遊んでいる親子の姿が印象的です。



お父さん製作中



私の羽子板!!

人の創った道具★人の使った道具

しょうゆ 醤油づくりの道具

3月6日から開催する「平成22年春季企画展 富士見のみそ・しょうゆ」の展示資料の一部を紹介します。

醤油も手づくり

富士見市域の多くの農家では、昭和30年代まで味噌に加えて醤油も自宅で作っていました。醤油しぼりの道具がある家では家族や親せきで作りましたが、巡回醤油屋を頼んだ家が多かったようです。

巡回醤油屋とは

巡回醤油屋は「醤油屋」と呼ばれました。依頼を受け、麹づくりから醤油しぼりまでを行います。リヤカーに荷物を積んで依頼主の家に行き、用意された材料とその家の設備を使って醤油づくりを行いました。南畑地区に出入りしていた巡回醤油屋は、下南畑・久下戸（川越市）・志木の3軒でした。

市内南畑新田の市川長蔵さん（大正14年-1925-生まれ）は、昭和20年（1945）から32年（1957）頃まで志木の親方のもとで働きました。市川さんに当時の様子をうかがいました。

醤油づくりの工程①

醤油づくりの工程は、大きく分けると諸味づくりと醤油しぼりに分かれます。

5月から10月いっばいの季節には、諸味づくりの最初の工程「麹ごしらえ」をしました。この工程は2日間です。1日目、まず小麦を煎ります。大釜用のカマドにのせた大きなホウロク（写真2）に小麦を入れ、竹箒でならすように煎りました。1度に7～8合ずつ数回に分けて



写真2 ホウロク
最大長 65cm。

煎りました。

小麦煎りを終わると、カマドの火はそのままにしてホウロクを大釜に替え、大豆を翌朝まで煮ます。この間に小麦を石臼にかけ、砕きます。



写真1
市川長蔵さん

このコーナーでは、当資料館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

2日目は麴を仕込みます。前日の小麦と大豆を合わせ、麴を入れて混ぜます。麴菌は買わず、巡回醤油屋自身が手がけた麴を少しずつもらってきて、使いました。麴を寝かせる場所は物置の土間で、ワラの上に敷いたムシロや麴箱（麴蓋とも）に広げてフタをします。



写真3 モロミダル
高さ 83cm・容量約 2石
(360リットル)。

醤油づくりの工程②

寝かせた麴は1日～1日半で熱が上がるので、温度が上がりすぎないように1日に1回は「手入れ」をします。およそ1週間後、熱が下がると麴が完成します。この麴を水と塩と一緒に仕込み桶（諸味樽、醤油樽とも。写真3）の中に仕込みます。これが「諸味」です。

仕込み桶は日当たりの良い場所におき、1日に1回、櫓棒（かきまぜ棒とも）でかき混ぜます（写真4）。これは家の人の仕事でした。



写真4
櫓棒

醤油づくりの工程③

半年から1年後、熟成した諸味をしぼります。これが、11月から4月に行った「醤油しぼり」です。諸味を片口鉢ですくい、麻袋に入れてフネ（写真5）の中に並べます。フネの下にある受けの口から落ちる生醤油を四斗樽で受け、釜で「火入れ」をすると、醤油の完成です。



写真5 フネ（醤油しぼり機）
本体部分の幅 134cm・奥行 67cm・高さ 70cm。下南畑の巡回醤油屋が使用したものだ。

小麦2斗と大豆2斗の材料で、6斗（108リットル）の醤油ができました。だいたい1年で使い切る量でした。しぼりカスは肥料にしました。

春のイベント予定

平成22年春季企画展 富士見のみそ・しょうゆ

3月6日(土)～5月9日(日)
会場/資料館特別展示室

農家の自家製の味噌・醤油づくりや、市内で江戸時代から醤油を製造販売していた家などについて紹介します。

手作りみそ“ふじみ育ち”販売

企画展会期中、公園内の売店“ちよっ蔵”で市内“手づくり村”のみそを販売します

営業日：火・木・土・日・祝 10:30～15:30

企画展関連講演会

「醤油醸造の地域史 -関東地方を中心に-」
かつては多くの村に中小の醤油メーカーがありました。その生産・流通から農村の経済史を考えます。

講師 井奥成彦氏（慶應義塾大学文学部教授）

会場 資料館講座室

日時 3月22日(祝) 午後1時30分～3時

定員 30人（申込み順）

第14回ふるさと探訪 ～東大久保の自然と文化財を訪ねる～

と き 5月9日(日)

集 合 キラリ☆ふじみ午前9時

主な見学地/キラリ☆ふじみ→蛇木河岸跡→大澤家長屋門・穀蔵→元鷹場鳥見役→長谷寺→老人福祉センター（昼食）→びん沼自然公園→車地蔵→文化の杜公園（解散、午後3時）行程約9km

定 員 40人

参 加 費 300円（資料代など）

持 ち 物 昼食・飲み物・雨具・敷物など

申 込 み 5月6日(木)までに難波田城資料館へ

主 催 難波田城資料館・資料館友の会ふるさと探訪部会



ゴールデンウィークイベント案内(4月29日～5月5日)

よろいを着てみよう、紙のかぶとづくり（有料）、コイノポリづくり、五右衛門風呂入浴体験（要水着・タオル）など、様々なイベントを行います。ぜひご参加ください。詳しくは、4月のイベント案内をご覧ください。

難波田城公園まつり

と き 6月6日(日) 午前10時～午後4時

※詳しい内容は、「広報ふじみ」をご覧ください。

ちよっ蔵市（難波田城公園活用推進協議会主催）

3月28日(日) くさもち販売

4月25日(日) かしわもち販売

※時間は午前11時から。売り切れ次第終了です。

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開園時間が午後6時となります。資料館と古民家は午後5時までです。



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館 休館日/月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日（土曜日・日曜日を除く）、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園 休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時（4月～9月） 午前9時～午後5時（10月～3月）